

12 神戸大学 × 天津大学 国際ワークショップ

[日時]

2018年6月11日 - 6月17日

[担当教員]

栗山尚子 中江研 高麗憲志(神戸大学) 鄭穎 胡一可(天津大学)

[参加学生]

井上堯大 田中里奈 野田杏菜 具志堅美菜子 斎藤愛 井上凌成

越智誠 花嶋勇哉 米倉良輔 王兆琦 張嘉龍(A66)

[Teaching Assistant]

伊藤大輝 小島尚久 山本雅則(A65) 張慧若 李海寧(博士課程後期課程)

課題：神戸港開港 180 年の都心ウォーターフロントをデザインせよ

■課題主旨

産業構造の変化や物流の大型化により、より大きな湾岸機能を求めるニーズが高まり、港湾関連施設は、都市の中心部に近い水辺から、広大な敷地と水面が確保できる沖合の水辺へと移転が進み、旧港の有効活用は、世界の湾岸都市が持つ共通の課題である。

1980年代、日本は好景気のもと、欧米のウォーターフロント開発の成功事例を参考にし、ウォーターフロント開発ブームが起こった。神戸では、当時世界最大であった人工島・ポートアイランドの開発（1981年竣工）、神戸ハーバーランド（倉庫街・古い港湾施設の再開発。1992年まち開き）が実施された。1995年の阪神淡路大震災後は、災害公営住宅の確保のため、HAT神戸の開発がなされた（1998年まち開き）。このように、長い年月をかけて神戸市の都心ウォーターフロントは開発を進めてきたが、都心とウォーターフロントを巡る課題として、①都心とウォーターフロントの空間的な一体感の欠如、②ウォーターフロントの環境資源の活用不足、③都心とウォーターフロントの機能的な融合の欠等が挙げられている。

WANG Rui ZHAO Sici ZHANG Jialong WANG Yuan
YU Jianing MA Xiaohan LI Qingyun WEI Jingyi
LI Pengfei GE Shengya ZHU Liheng (天津大学)

2017年、神戸は開港150周年を迎えた。「港都グランドデザイン～都心・ウォーターフロントの将来構想～」（神戸市みなと総局、平成23年3月30日策定）という計画のもとで、都市ウォーターフロントの再開発が現在進行している。本課題では、グランドデザインと開港150周年にむけての再開発をふまえながら、約30年後の開港180周年の神戸・都心ウォーターフロントの計画と設計を課題とする。



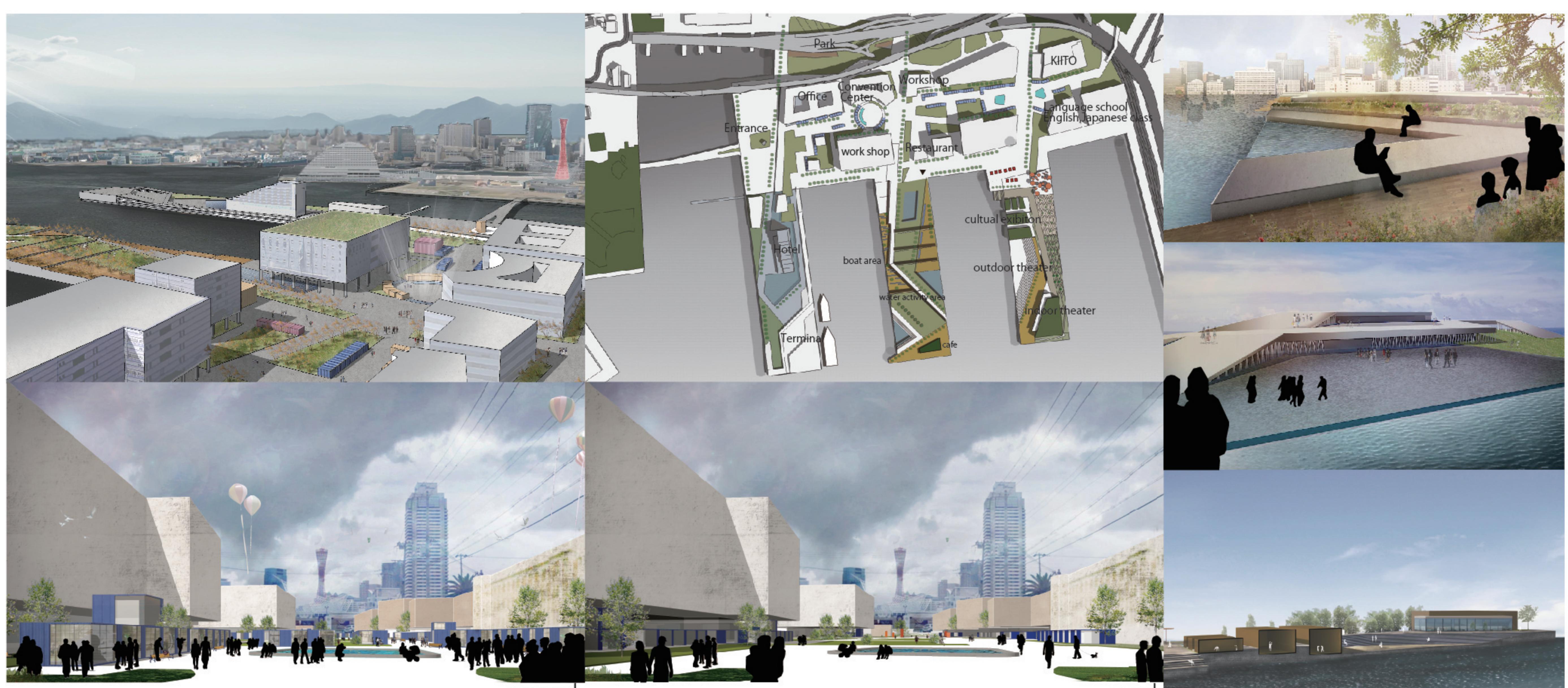
▼神戸大学と天津大学の学生によるワークショップの様子



馴染みのある敷地の未来を異文化の背景を持つ天津大の建築学生と考えることは新鮮かつ大きな刺激になりました。スタディを通して顕在化してきた互いの価値観の違いに悩みながらもそれぞれのグループが工夫を凝らしてアイデアを共有し交流を深めました。短い期間で扱うには大きすぎるスケールと正面から向き合い、夜通しの議論の末に提案を生み出す難しさと面白さを感じたワークショップでした。こうしたコラボレーションの機会は誰もが経験し、国際交流は個々人の視野を広げ、私たちが将来活躍する社会では重要なスキルの一つになると感じました。
(井上凌成)

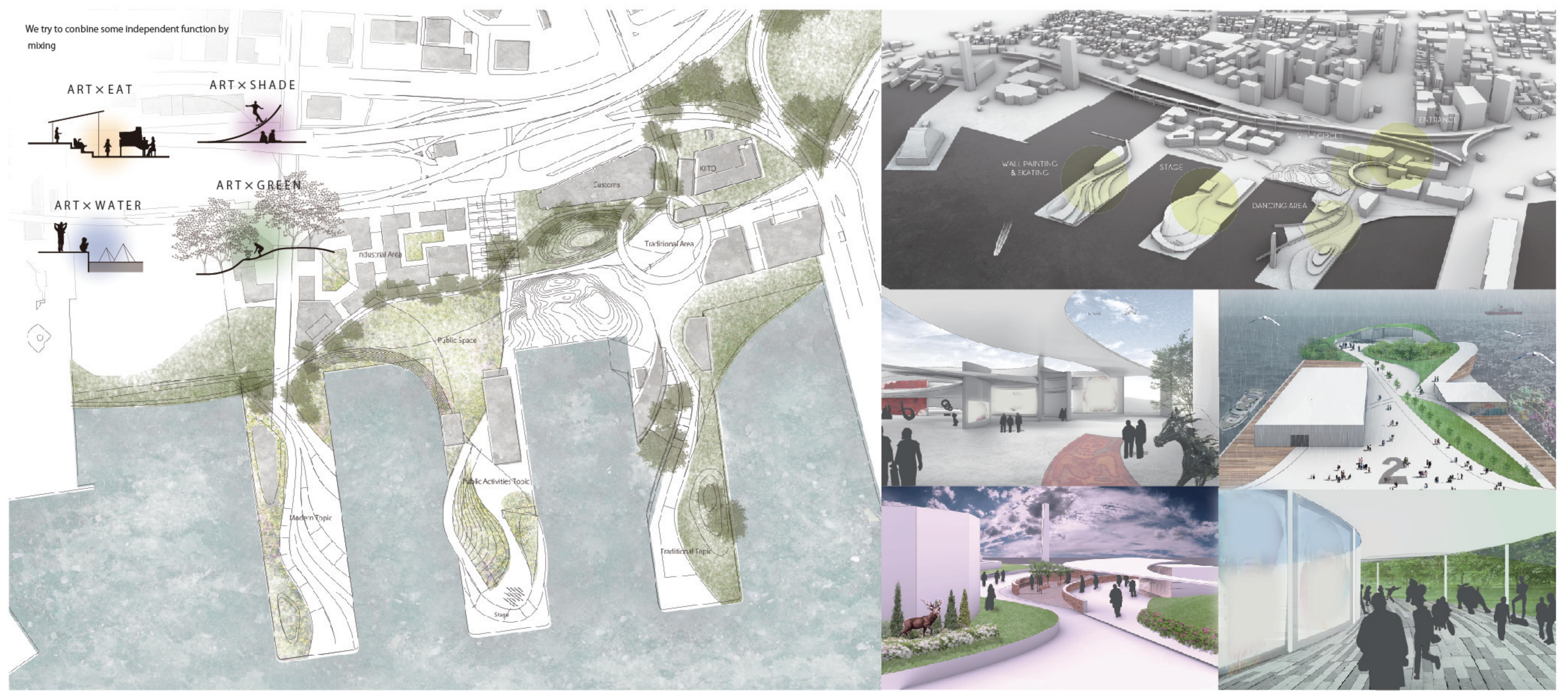
World Expo`rt

花嶋勇哉(遠藤研究室) 具志堅美菜子(末包研究室) WANG Rui ZHAO Sici ZHANG Jialong(天津大学)



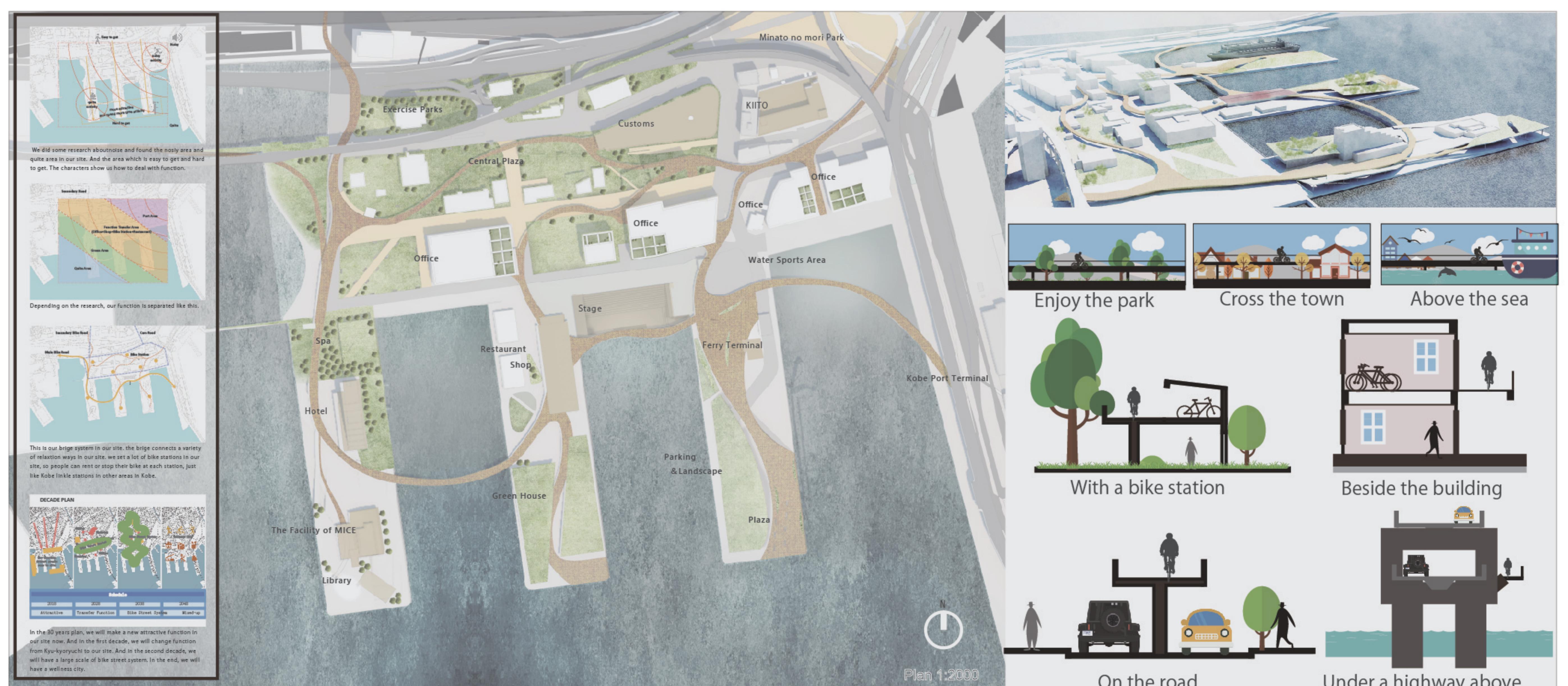
POART

井上凌成(遠藤研究室) 野田杏菜(栗山研究室) WANG Yuan YU Jianing MA Xiaohan (天津大学)



WELLNESS CITY

米倉良輔 王兆琦(遠藤研究室) 井上堯大(栗山研究室) LI Qingyun WEI Jingyi (天津大学)



冠婚葬祭

越智誠(遠藤研究室) 斎藤愛(末包研究室) 田中里奈(栗山研究室) LI Pengfei GE Shengya ZHU Liheng (天津大学)

